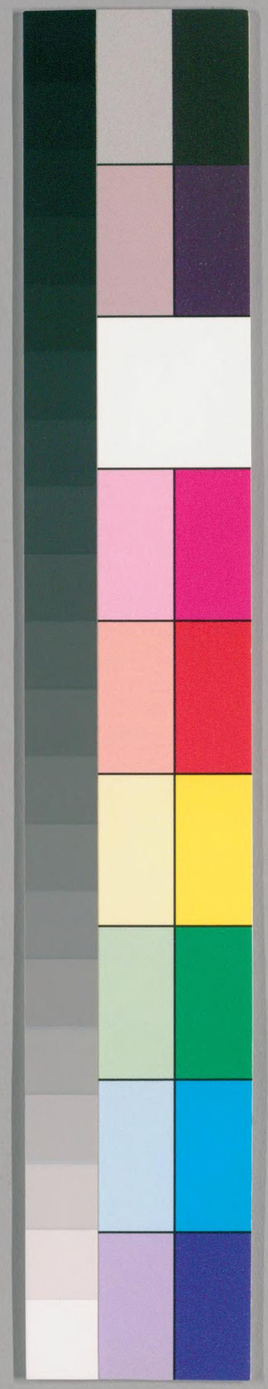
別13
25
28
別置
2



国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

13-28

志だ

まで小義平ハ七年まで開えて天慶九年小
かりの天暦十年きのとの卯孫生す志所かたよ
おるゐ乃ひめきゝ我小山の太郎小とらせら
ゐしをやまの太郎ゆきしげハのそむ所重れ
かなふうへよろこびあまり志りじとてむへ
もてなしかしづきやひとの所に仁儀の法と
いひ草乃かけなりさうまとのくおほしめさ
まんところもあをうやうふかくやさんとて
さむかのせろしやう我きんなむしを時き

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号　本別13-28

ガラス使用

せんをひきゝ又あるときは遅(きゝ)成書(かき)てはりひいり
てそとふらひまゐらせぶ(ぶ)ゝ(ゝ)しまゐすみぶい
どころ作ゝ人きゝしめさまてをやまれ大郎
ゆきしげはあらはとこゝとはりひてあまは
るさけのこゝ人まてありはやの事を思ふ
このだふにはいまれるる事ぞうしまし
てやみにせぬしうとをやうにふくとふ
らふ事はよくこのりしきあゝ浴うるとき
くこゝへ来(きゝ)まうしさうまとのくかゝみ
とも見ばやとこそはなせまり

その時こんハおうぎしやうきをめして給まハい
さうゆとの〳〵末期(まつご)の時おほしめしやよされ
きんあきかくせつきしよまう(所望)をひめ二一所をは
ゆたうがしたえてそれとなくともおもひしれ
おもりんたらんとおもふ心の志やう徳ゑんぶん(円分)ほけ
ねらふとうすがその心はしさうゆくしあき
うちぞてそのちからう法百様二百様その
まんまるを一人がりとこもなやまハ西へと北
せんゐんへまいりてそ祈たからひさうるへ
うきし晴志まし法迹筆経中ぢん[?]

中きつハ古来のありしき清たゝらひをいつそう
御本世をゆつる色きそれらとりの君達(きんだち)二ひめ
子ハ清ね二他人(た)となりむねとなるハ志やうちく
うしはこ川まはからずのおもひまりなつく
おしめされとく御かりくのひきてそのう
たりつハ信く世様ふともあ所望(しよまう)ねがくハ
一所もゆからせ給ふへしはん人ハはとんよく
こまうとてよく志んうち二ふくめ志たし
さなかそうさうなりハ　よそしくなりけれ
清対面(たいめん)してなりくまうの世(よ)をそめ〳〵たく

まことらせ給ふ面けまに山面に出ないめんを
むかしく乃法事にうへしと以外にすきり
見ざいあのよし此右法西事なふそんめらせ
こまひい川志りさうまにしきをくまうられ
者さへうろ志めてゆりしきものと思いるく
くまをうの乃をとの法こなきよなりしくうき
よりにかりをかいへをもちてせんをなしぶ
とのかいと面をこひ　こうとき山のうくまを
かにを引こをらもやなんとしふりくそうう
見給ひまり　志ぶとのそうし給ふられてたし

子乃うしゝ者は乃理あまきるにとをなるは
なまを一人面しまに母上の法をこりも書てい
せんなしとそ信太乃庄銭家にけたくうへに
まいしせらうまくうへなるめるまにはよろ
こひあそに山乃こちへをくらせ給ふをやまに
なあによろあふそひと川にはむとりしい
よろあひ乃　不和いりなりをれて　あしろ
乃あしまハちやうたりこしハ十二ちやうそう
してきれハ三百騎上下をなめきゆくしく
志そ志こ乃雁面そこ川られけり

新屋をはくらせうくて宴に伺候ひ今ミさら屋に

たゞや里志ゝの先祖の郎ホとも目くにお仕い
ひまもなしされたうきし屋父子六人いはり
くまりのお仕すてさなりうはおよはめ
さまはみぐいのはさをうすく成仰をに付く
首より里をのうき事たはかくしてそろれと
まり方をなしよのあさ屋城ミうよはけ殺れ
世あやうりをまはなりくさもん物ゆへよ
しやいつまでと思ひきり志ゝの河内にひき
ありりいんきよしてこそねさりけまは臺
此よしを御覧してあらはりしれう夷し屋う

帝圖

国立国会図書館　タイトル『信田』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

梅ゝまひやそをあのうゑしまた夫 我郎ホに
もさねをのハ世ゆはまゐまねものゝ小山夜
一人ゝ小を聞しまきこれ何の子細(しさい)ハ有きと
よろこひをなしてさうへ給ふさりなりし深(うき)
鳴(しま)ゑ夫いりんきよ志ぬ志こをいまこよりち
なり大事乃ちをん聞ゝかし家ゝ法こそ
てうかうをうらよをきそいせんなしとそ一
川ものこさはをしまくらゝをやまの太郎に
あ川けらるくさうあひこをやまへ人なり所ホ
記きこもりくりくこうに聞きかとこいく

よりもをうほこへうゝせうをんとを一川を
のこらはあゝホありるホしくしこ玉法くり
とうてうハ八万町(ぢう)乃所也あらあひ無しや
此内ニ川ゝ一万町をまゝかし 和(ち)行行うをたホ
ゝ小梅そくもなきとそんずうましてや強(のこ)る
七万ぢやうひこうゝ下総(おさ)あ國の松かいのすけと
なりなるはまゝホましこうゆゑとりの國に
二人とをあつ為きかとく屋ゝく大よくしんそ
業る　うゝめくたきてうかり我さうなく
あ川うゝ事天乃あこへとそんすまは 弟(おんど)嫡

とゆさんそのこゝめにくま野(の)まふてに来しこ
せそいそ紀らに我打たけく頼るそのかり
きら関白(くわんぱく)てゝにつきゆあんとれむ孫をそう
もんゆうちより乃せんしにはさう海り迫我
ゆいるにそのそこのせんしなりさう海ゝ為
には一子ていゆ法りの年門きせうもんとも
代こ乃法書(しよ)其我志せうこくしく来らせあけ
理(ひ)姫をまゐ就くそうりむまそ上國いうとく
なりようにもしよしにも尚別にもたらう
とあらせくいさませうりゆり君にもこう孫

まう乃るまうら金銀のこゞひ我数をほくし
てすいらせあくら左右の大臣きさ紀れこゝ也
孫うたうこうを外乃人こゝにもたらうをあら
せくいさませそりゆりこゝんをてきたうさ
そうるともるとうたうなりてあらるきまし
てあらそうそのいるしむくうしさいにゆ
るしあんど給りくらりゆり さらにひさ
に山こちくあんじをらる其法壺(ざい)所とあざ
とのりかゝなりともらうせふちせそやと
思ふかいやくうらむ門かしきその我たす

けをくなりたる後のこの事門らひと成事しを
あへしこちまちうしかりんと思ふかそまいは
雖(あま)りなきけなしきよせん於内よなりね迄と
物りひ面もとにをきしりはさきへ人を立
みぶいどころとしごどのよひこち下総西國
にあ培をかるふへうれと我きくにれしらね
里へとく落行(とちゆき)給へ直ん志を國に御しくて
我たしうしこ給ふるとなりこそのけらひ我
だけり　みぶいしよしきこし絶しひとへり
ゆめ乃あくちしくうつとさらにまきに御へを

を屋まどのう所存(しよぞん)にはてん御を志ゆんか入
うりうるかやいるる是まてかくいふそと
くと記なけき給へ其あらけなきけらひにて
なきけをすてく御へを　深鴻(うきしま)太夫か云(こと)
薬(ぐ)乃すゑいまさら思ひしらまりさてあり
直きにくあらさまは志ごどのけりけらも
まてなのことをよいて給ふまにいてく又
御へ直きみちだにもわるまといへを掴うき
にけふあくのそのちに御(人)らん事をかなり
直しゆくをとまる事をしなくもろきい今

のなまさかなかひの図にかくなりいさうき
の里といふところにこれぬ色き人ありて故
さとまそいはちゆき給人とこれぬる人を設
すくなすなにはけてたりなしいまい
いれ見へ行色きそ名をいさうきと受け書と
うせをこ後らぬあぞらなにやとうりてこう
おもしまれ　めつらしかりぬ事なまど
報りきい人乃郎ホ也さうませんその家人
さんし後共傍むらなるあ良なる色此孫次郎
たらこの方来のあの人とさ紀として以上

十一人は あとをしたひ中いこかきれさとに
まいりきこと我見付しくらあしふ事いうきう。
なし

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

さてくあれとすへきそと内儀ひやうちやう
とりしくなりそのなかにとりしくもさつし後
無傍すくれいてくやまきらかせんぞのさつ
しまたゆふ主君らうとうのけい屋くをや君
をまつまつを三代也せう面いの合戦なしまつ
て数度のさくひ有しるとも清ふ小ゆく浅
かしさりしふ小きこをあやくに御座あり我ホ
もまつき者なまはなをやまとのかいやしまれ
無二乃本領ゆふまやうしく　をひいうしや
むかんさうよいりまつてくてこらふ面き諒也

大せいなまたふせいてうろうふまりこと
取討よしくいよもあもしもとより我ホあん
ないしや記まをうろ如ひ志のひ入三方よりも
を火我かけ一方よりを切くいり子孫万孫か
なら成とも思ふらさいに只一人をやまと見
まんを事を名何乃子細のあるきとちやま
よとうやうにそこくみまんを中すと聞く
もといふ乃太郎かやうあまこそよりらぬ
せんきなまを理我をちなりしのあらせんきい
思ひをよらぬ事なてひさいさんなふ

さこにくす一もんこう二もんこう三もん
さむこう法ろくまけをもろこうさこをこに
を母門そふうんとうんなてみたなりいさこ
乃ちうましてや一度を世さらぬさこ我てき
ちうさんぬそのさ紀にひくうにやな我して
こ海りうところの安坊なりあまい海きあき
多志ゆう見いさうまの法子とはよにいうれ
を海しまさすなんを世うをんあるこまをと
ぬまことしきしまきんを我立るとうはあく
うんさくらんと理我をまぬ見くいひをまは

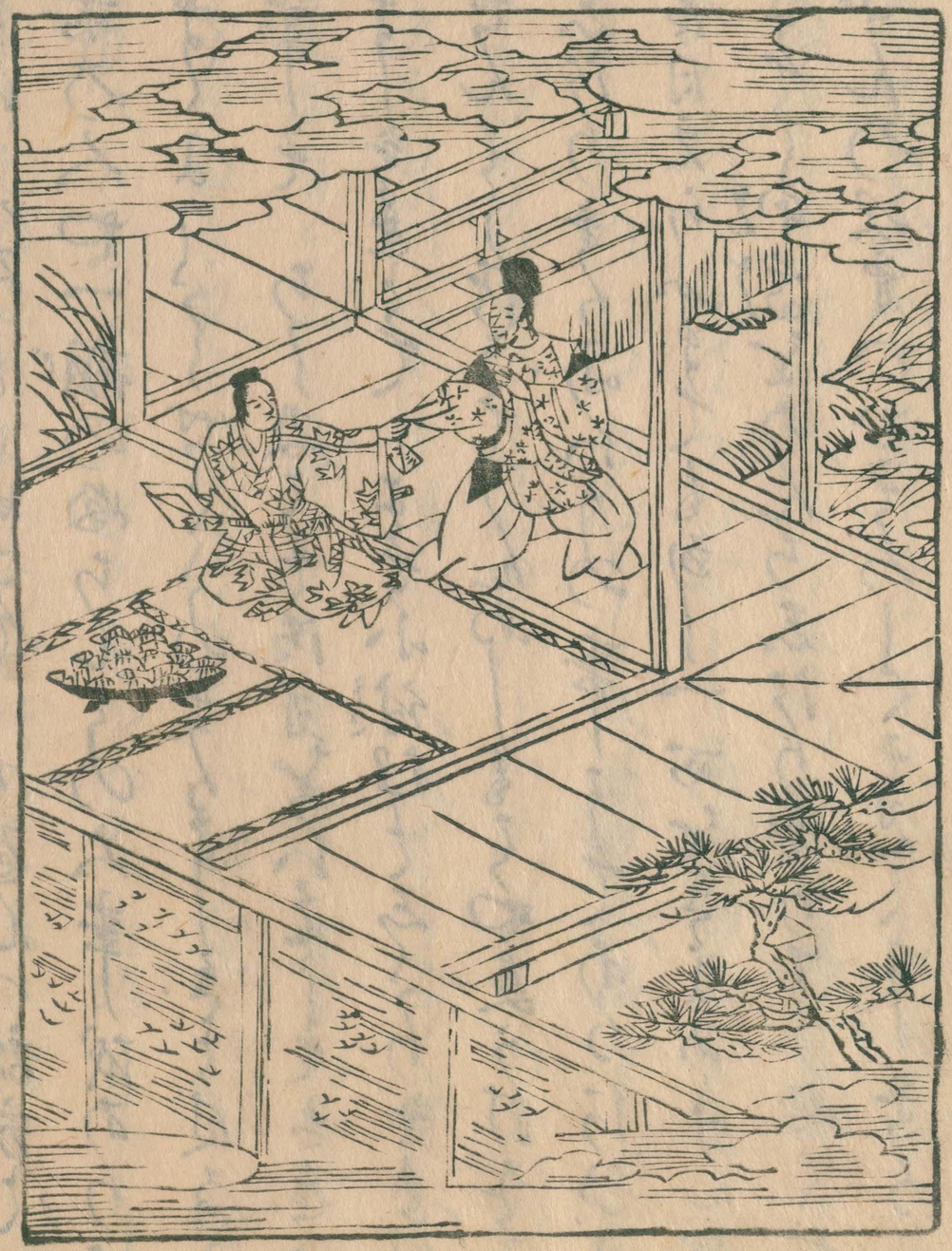
国立国会図書館　タイトル『信田』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

むしに美よ同ようとて法靈所と志ることの我が
してこゝやこへのかりまゝり　小山氏にまし侍へ
ゆさまは母んをこそ母んを志らさらいかく
せきのあとしあり是こを是こまこすけをきた
まはかこきとなるこそやまから孫のかせ立
てはかるふましたおくをんはめうてやとそ
らつきゆうの法ものを七十余人さし法りは
かりまゝらとしろりこし海のあるかや屋う
こゝてはあり　かゝまは以まし理かなけまは
しそうれ　こまとて屋ゝくかんはやうをはめ

さんへしさまはむりしかいまよいこうまそ
ちらに及ばねかこきをは佛神ア事此こら
まのらかるふましをうけこ海りまは信田長我
調伏見されて法滅せよとアを屋まをふそと
母りひ屋ゝくかし海へ使志をこそかんぬし
いそきこゝやうしよせいれよ里もきらめいて
ちうをはくしてもてなす酒を三こんと思こ
し時しやきん百姓よきこるふくらをひく刃
立たりかんぬし志つきのいろ思こそ孫き
いさむふせいありに山今ハかうよと母りひ

あさ里乃人を者ことのけしぶ我てうぶくを
面きこよしをひとへ下しこのこ者ろ神宣をしき
かまろてあはらおしきは徒(ぞう)かなまゝ者
うしまのしやあんとし天長地久浩くまんしん
まんそくさいえんめいといのるより外別よ
ひしあれハ三寸雑さう人我てうぶくすへき
夏者なりしく無うのちをんそ扨そろしい
さう面きかとろうそうへ扨なせ浩けられ
非へと云くあけひとををやまあのよしうろ
よりそぬさうとろをげんと云くたりと我

と同くひんとしめさそハ浩面んハ歓方(ちきかう)と一
所乃人や一期(ご)の姫ちんこの大事我ありれ
ましまうこせくこのまうましきとはなるに
事そ　ちし及ちまし浩身をハえこそ也面(へ)す
まし者遣とそ　まそに討(そこ)むとしたりを者は
せんまう浩きてうんぬしもたや度うけなそ
志たりをうあハうの事にてあるにひさ
右日えらふまそもあし一所をきよめこん我
こそく和(そんぞん)當をあんちしたりをりてう姫くれ
ぶん乃次第ハおそろしくそ刀んこそし者ろ



四面のぶんをかさ間くなうまゝかけの花
ゆうまくに山うつ木しやまいのあに升もり
のちくくにいひけちのいひをまつくせうかう
けううもしのあ称けまんにあせがのもみを
もりあるにまくぢやのあをこまきてにとう
ゆうにはかそきのあつゝ立にまりねんぢき
日こそりかもんこ初一日のかんぞん地さう
さんだ南むぞ二日ハ観音小白三日ハせいし
朱白四日ハ阿こぞ西むきゑ日ハくらりかう
さんせ六日ハまてにうんかう座しや第七日

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

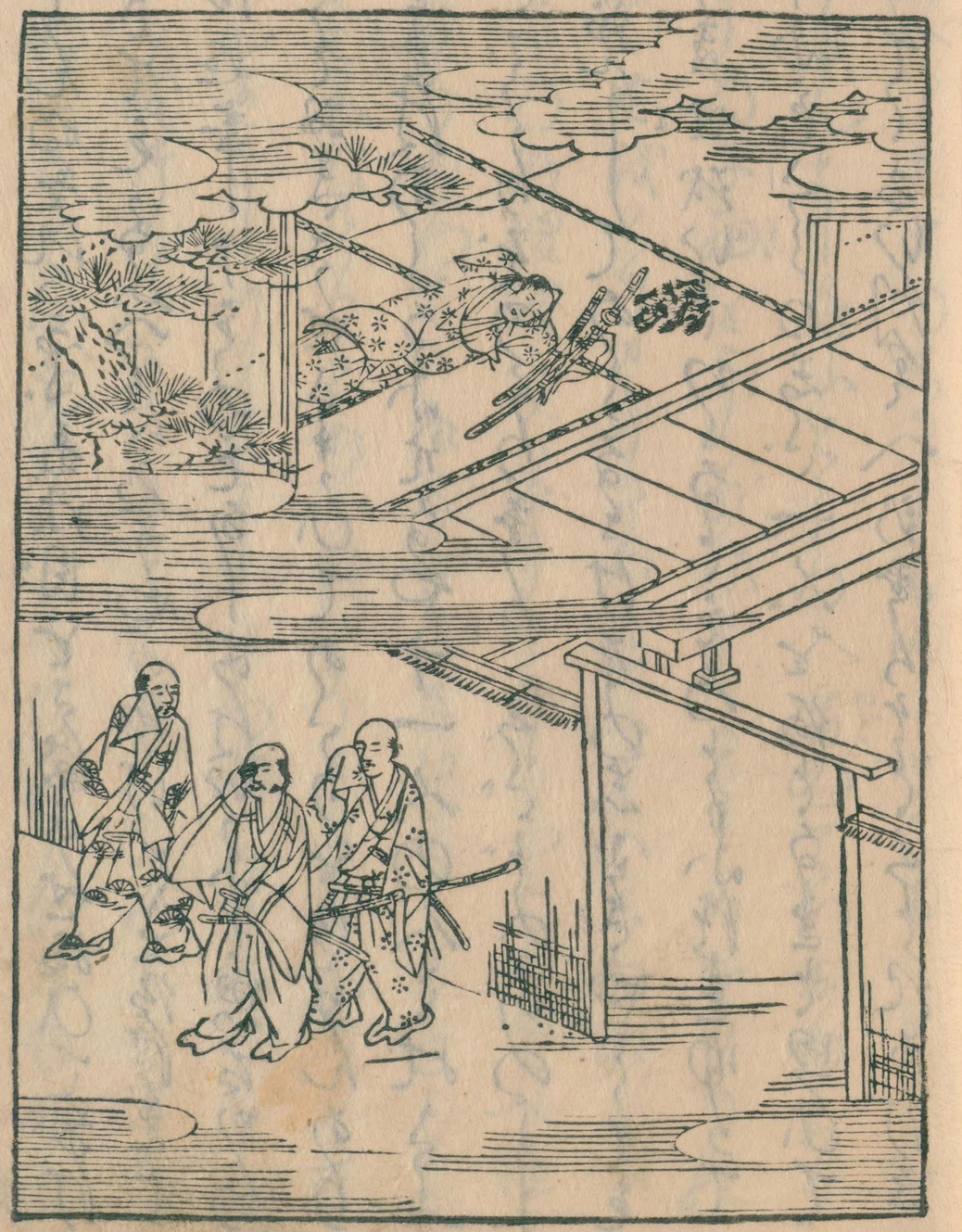
にあたつの月いちうぞん不動(とう)ゆうまうせめに
せめくといのりけつさまともな理なる紀より
よりくそのしるし忍くさまはきゆうしや面目(めんぼく)
うしなひく二七日そのうちしまつ気まをしなし
忍くさまはねんあろしくせんだりしやるん
ゆりるしやなむとそせめすしまつ殊救(じゅぐ)れを
つつまきまきれもあゝを持くひきをしてき
さんこ我を聞くむ孫をうしきとつこを持て
りう色をうちいてき我うちあゆりちやうしゆう
よりをあへまつちをはぬとうのまきんり

をしぬつて気ハてうふくかんれ男れ血成と
らうん弱んして天地(ち)をうこりしせめけまは
あまりりはよくせめられくみこいそんな
しんとうしてうさんせはとつこをふり
こんかう座しやまかくをはうふ大いくそれ
のりうしゆはのをふつてそかえにまつちう
そむふとうのまんのさきにあまちつはいて
忍くしつは一かうは成就(ぢやうじゅ)しつりとてぶんを
座ふうせ給ひまり　あらいくりしや信田殿
あまをは夜(ゆめ)にもしろしめさまをあけねられ

ねとのがら世給ひ来りなとにをたり此國に
やしこうろくろこの志ゆくに作り世給ふさま
ともてうぶくかきりあるよ所にて志さどの
ゆはおひ之面りて　母は壼(ぎい)に出ひ給ふ事
乃いこりしさうよさまともものからてうなりね
ねなやこなりこものから世給ふ　目数やう
しうさ幾くを(あふこ)江の國にやこしこうばんばの
省に作り世給ふ　次第目こにおとろへ今は
きゆうぶこりなたほ之日とう思うしこまま
へり　信田(しだ)殿我なしめまり十一人此人こは

あとや枕(まくら)にこちらこまていくいせんとなけし
ともはゆにはりなりねは生死(しゆうじ)の為　あしこの
露とさこ給ふあはまと云をあまりありしこ
とのくはなけきこと人我とうにたかしなし
こまとそをむ志ゆうはのうまがこままどかろ
あはまいまれなり毎し枕(さて)あるへきまてあら
さまはむえん乃ひとをうこう起くなりと
なすそあはまなり十一人の人こは一作こうろ
にやうしこゝとのく作くまはうはあくまて
なりとおもこりいけまて作きそひまり家

言日



よゐなりとしんをせんへこの人をこのまゝ
こそ弓矢乃きずたなりなほけまをおぶいれ
ちしさとし世我のがまんと思ふとて志のひ
くにもとひきり両どろミ給人多信田女れ
まろうゝにとりをきていとゝ両こひをもや
なけまとさこそ名志こりせ給ふなき志のひ
称なひてあく難くされ多称んのはなしミ
このミし君ゆく両しまゝせをなくりれおし
さいかきりなしさまを思ひきり法くまりれ
くにかりまきり

国立国会図書館　タイトル『信田』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

てん的をれハ志ぶ夏法目をさ海させ給ひてなけ
きてをるふへきたりやいそけくと給けまを
法廷事中をのをかしまはいふと思ひかん
だと知きさせまひてあらりを法らんあり
をまはあらるふ先なるや十一人の人これふ
さだりぞのうりまり　志ぶどのあのよし
法論してあらるさけなの志まぎやとそを
うま世我いくるとをろとふ法まゆりて
年ふをこらね志ぶ一人を何となるまと思ひて
すてしまい門食へ行まりそとくと紀なけき

給へとをその志ましも同しまさまを　ちらを
きるんとし給ふところへ宵のてい志也来り
事乃子細をうりがひやよしめをりり此
ことを我くりしくうり給ふてい志也取くさ
かとく乃理我をちなりるとやこへ法
のかりあつて　法さいなる紀そとやしせとも
とを人記とりをあらはこうきふふをこて
せんをるしふしきれころぬりをのあらを
うく我法りとうこ是とて給んふ中かこな
をぬきまてふ志ぶひと見ミ給ふてい志也難り

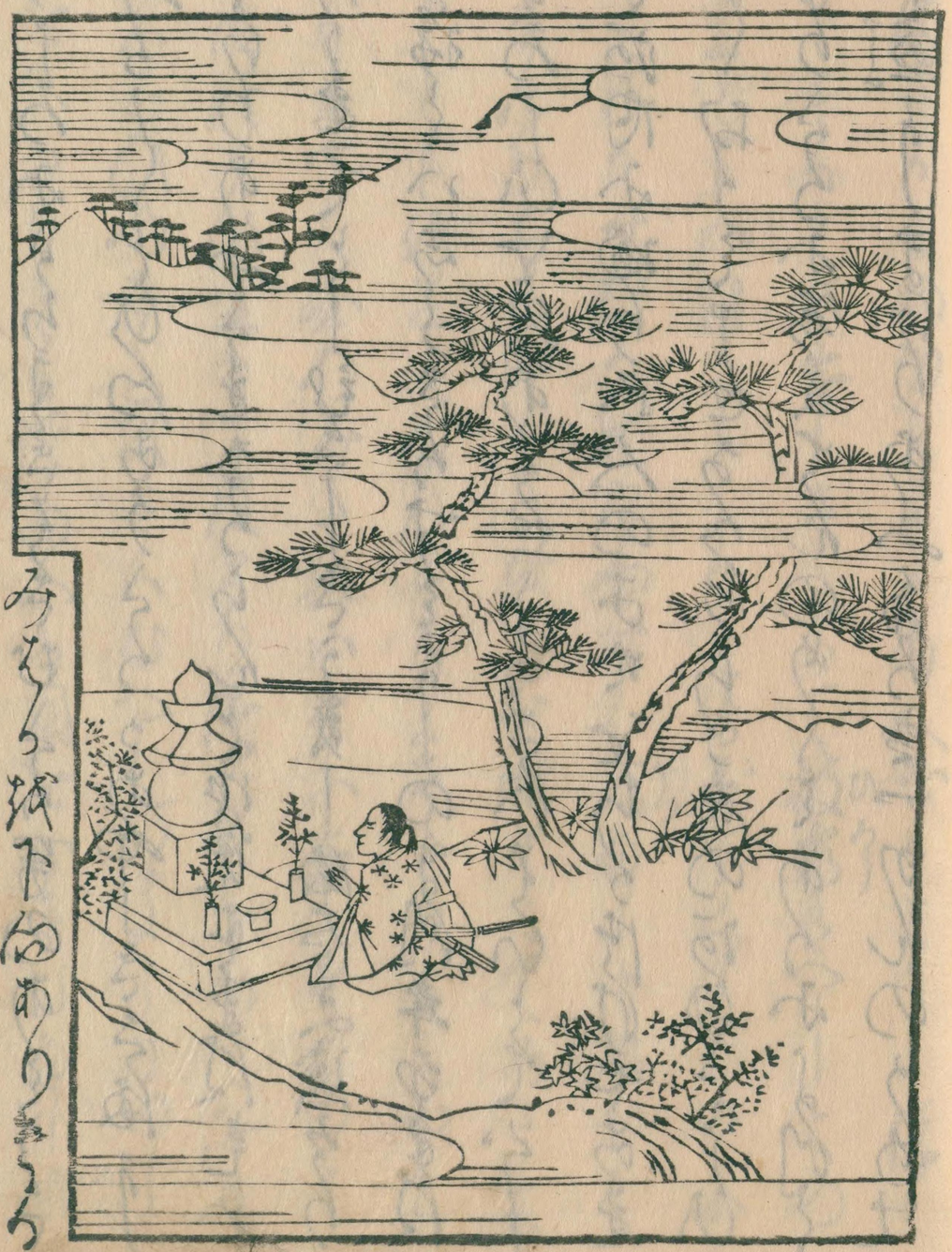
国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

乃世にしかれ抑りむ色きそとおほしめしみ
たらふまゐり給ひ草木のたるを御覧(たむけ)給
とそくをかうほこるまき才我ひとりしらもの
まんさいへむへとうせ之後りはしうき世
よのこし給ふ事よくくと記なけき給へ其
たうまいなまはとく門よる皇帝しゑあり事
をすしさくくとしたうかう物のをとまり小
きんすりはりなりたうくとしうう菓(くき)れ
御色乃すそをたりとをうち志かを望御きせれ
をのれなるさなり



みたら我下向ありまうら

国立国会図書館　タイトル『信田』 請求記号 本別13-28
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

ふあはてくるふかせんふかくこ孫くを
法くきとゝもを人まをそろへてかりきらせよ
もし皇とう法きいしゆゑ寝かしこれ法まは皇
とくれしたりかけさせよかゝ皇をこゝろせかひ
そをあけうらとけぬかなくけちすまは
子たゝなゝあふよろあふてとてもきも色き霧
乃身張きゝゆへ志なんうまし座とよろこひ
いさむそこのりしき　法くむとすまとしの
事小山かかくへきこゝけまはをやまは物が
きふ物とろきさそ出せんその郎ふりうき

し海かこのまれまりや方こ記きあひ法のつ
ていとの大夏こゝろへしいまさちられ事紀
さきまもやよせよとゝ所りとゝてをやまか
志つしよくすゝ大物ゆく一の東戸（きど）迄せめ
いりまはとも大物うゝせ引かへをかくてい
りなりしとて小山か含弟（しやてい）三郎ゆき三川三子
余孫（よき）をそのしあく成せんとくたゝひまれ
ともあまも大せいうゝせてひつ西（ひ）すさてい
自身（ぢしん）むりていかるふ色うれとをやまとの
のむかいまをまはひうち下総（おさ）西國にのこり

法ものハ一人をなし　城にをあく我せんとく
たゝひきれたぎにやよせ手ハ國のひと川に
戦く筈をこゝ孫をこゝ居いちに居を法くらせ
あらをを入りへせめきまはさのこゝハいりく
こゝらにへきそや二三の木戸をこゝ打居ふられ
法めの城にそありけり　父の太夫居くら
のうへ大蓄あけくいひきりたいのら我
毎たゝ合戦ハ度によりそよにあり人をしう
りもちすゑをこのむときうしそいのらこ
おしくおもりの達い川ますていきて何ときに

世にお居しと我ゆくまゝ子ともハな紀かうら
志に我せよ太夫をあろ居すく援きるんと云
まくにまいの我かゆくとりいたしたりへ
あまりこゝ世矢部三かうあく世追手此居
くらにたし里あり聞くいりにや孫うたうこゝ
へきてさ海引くこへいくさをして見せんと
あしと紀孫うたう生年五十六り寸我なり
かくをかし里にあけうすきぬり川き居くら
にあり　なにとて子とをかいくさをこゝ
て今までをそひそと　志きりにちらを法け

られてたやう夜し夜左帝かけありその日我
さいごと思へたまうをぬふうの郎ら連れ
をにうさすけうさうのあてひやくうんみ
りきのす孫あてくまのかものもえひしろ
ゆりてへりゆまうしあくちたらよふん
あううり志くおがうんのたいうそしいと
ひねとしのよろひのこのときとかく座くを
まさかえと問く郎つうてくさずりなりて
ざつくと蒼(き)ゆつて上帯(おび)ちやうと志め九寸五分
のよろひと紙しをめくのまきてさひうう

きり一尺八寸のうらかうをを十文字よされ
ましま三尺八寸うひししやくとうけうり
のうちちひて四十二さひあつううすなう
をたまうおと問くけけ聞しけれまい
かみとおくまうこ問くねらひに蒼志うあや
のかろ我さ問とうけぬりてめのゆえれ四人
ちりせめのせきけうけさせ其中ゆぎり
よこうへ三の色うちのしうあしけ七き八分
あけ六さいりきんぶくまんのらうをりせ
ゆんけえよすりゆうりことのり城れそりて

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

ことまをまゆり兄弟ゑ人のそのたゝ物りひ
しくのぞそく我善あるしくのむまりのり
たりひよそろれをとりちんかけうけ志と
志うりし我うゝ紀みうさう兄をこそあゐ
たまむしやのいきかひかるとかめぬ人こそ
なりけまちしのたまゑくられうんまて
はくしこそ何まし稱うたうはらんせよ
いけまをきまやうはをとらぬよなふ あ川
うゝ子ともをこよふあらせ不能(しよまう)れぬしたなさ
すして兵今あろさんおしさよなさや志弥子

ともさいひなりし今我かきりれ夏方まは
今一度こなへかれ見せよ こまを名藤は
おしいそとさしもよう成たまをたらし
とそなきゐたり 稱うたうかあまは我ゆうら
しくとうちまひ母ひり かまたらたまゑ
わりまたいまのなさ事かれ泣(なき)てをうなふ
色きたかやいふやみともいくさはさはの大
事乃そのあろかかうなりまて兵法
あゝてうなりはみうこふせいよあるりし歟
乃附(ゑ)ふかゝ分ふはまきのさ紀とうり矣こと

きよまんくまくよく夜所也きよまんといへ
るうけあしい道のいろこをまかへりくまを
くとい色ないはるの明めひを色うしろう
こ夜乃きろ孫志ゝ見してうしきうむくうに
きゝきぬそむふふ紀をきんときいけあけ
乃むち我ちやうと聞く我りてやしれたれか
をすくひおりきりは切まそよ号ゑへうら
うこきをはまこのこれなきのと引さうかう
乃むちをうれてきまめてへうらうこ紀をは
うち乃はるをうやしてさりしれむち我うれて

きまぬかちをむまをあまますそこうそさしき
乃おのをまいつきそふくをうくなよ子を
とそ我しき夏名なけまとも子をふちうを
はまんかれめさ夜のいて我うらくきうら
くとまうひかりはくをや里れ子とをう父
あを母おもいさめられおこふをあけくうけ
いれる夜人乃うりういあしひきなりなら
はこんしきろれの秘事をしんをうれし
むち乃きよくむくうにむまをのりはまうけ
ていさんと引くこまを夜人のうりうれり

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

だいをんあけくかれるやういりしや小山
乃人こ我をはこまと思ふらん屋うぜいねん
より三代法のらいくまうに不代也まこるへ
こうに大将軍(ゴンジン)こゝのきんぶりむすめにこゝ
屋しや女とはこゝろありとし清同く不十六
二川となき命をハ志ごの法まうり事ハそ
我とおもいん人こかけよ年なこを見せんと
かゝしをこ川こくうち美(そし)法くまてにかけむと
志ゝりきり　ちしの大夫屋くらへまて
法くくこて子ともかうなりハ理母(こうこく)り

こゝろかかうなまはかりくるものせう親子
兄弟ふう姫と成くよ里あひきりこそかしき
なまいふやはまうこゝへ法おそをんな
いくさをはらんせられんへ　ためしすくな紀
事とをとて志ごとのを屋くらへ志やうし
戸くりく見事く　まさうとくの法聞なこ人
見かふ川聞しくて八ケ国此まうと成く
八ケ(り)年を法たりしかきこにもゆん年
乃法まなこに人見か二川聞しませんまう向
まてこう知れせはともかなる坂東(そんざう)八ケ(り)国此

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

ぬしとはなるせ給ふへしたとひまれしく討
死を仕るとも君ハいのちを両こふして世ゐ
まくハ御まちゐへうなら御二十ゐにて御代
すしこゝせ給ふ事　まゝまゝそまゝおを
りきてゐともう命を捨しけまと遠座(たうざ)れまゞ
我かくしこゝめみなうちぶ我御うまゐ
御かぢをむきをうちぶ小せん御身ハうゝ紀
小いけとゝまてをやまゝうゝちにとし我御て
よろあひ乃御代を詩給へ　いと両ゆてさう
えとて座くらをゆゝ里ととんてゆりひとま

ところへ御のとゝり一般ませの御かあらぬ
そそをはとひてからとまそとうたりゆり
かけえひらうゝなくひうさかゝる三あし迄
こそさひこりけまその日さいと此うちその
まと我ちうゝうゝる紀なるの四尺八寸を
きりうえをは三尺ゐすにあしらんひさえま
かゐをの人御けたり今ちつと此え長して
きりうすやをとらんと二しやくけうりし
さしさけふの御と孫ちきりなけまそこゝろに
まりひこゝふのてこそあのたまう孫座とうら

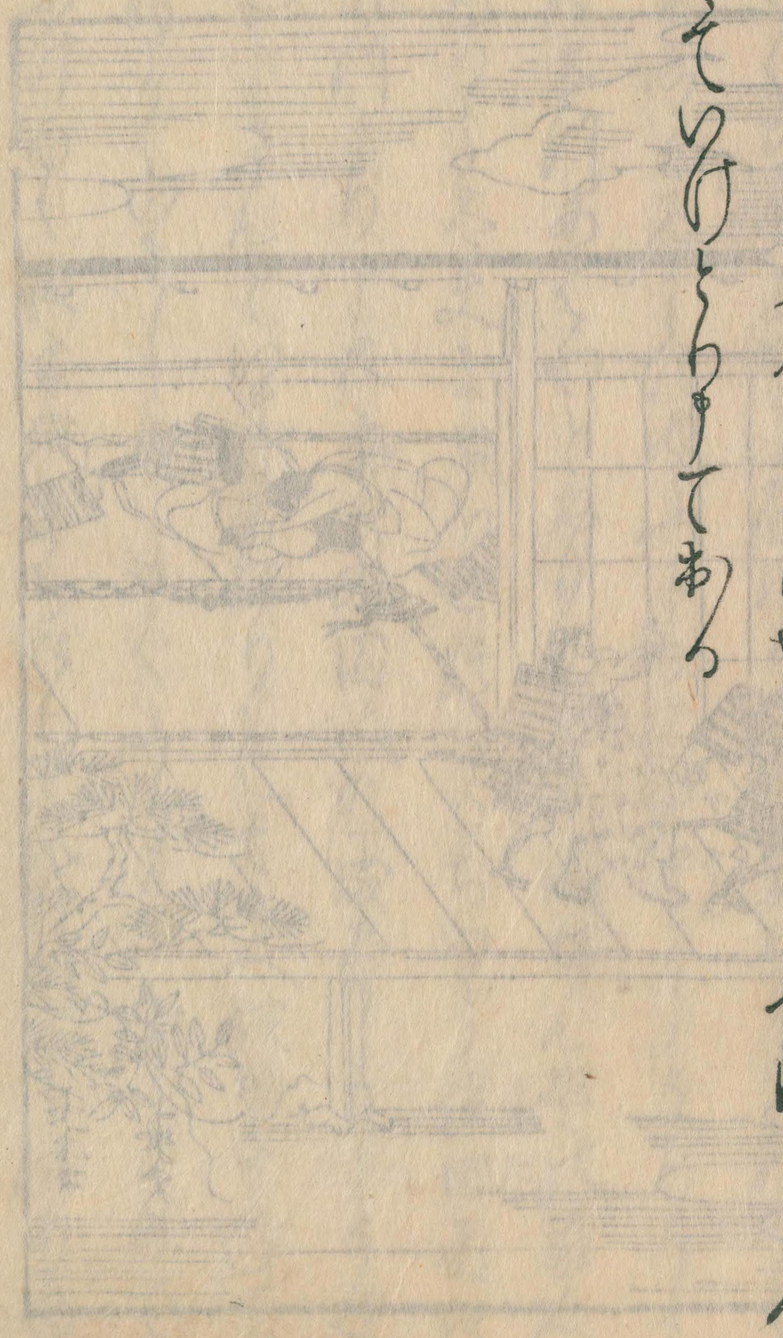
国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

うな法ねてなむさんなうあらきなやり程
のそのうきられ妻子(さいし)とものをなをいせん
なふ孫うなうと張り　ふうぬとりにこまれ
そろ孫をうひろめてうゝ紀の附(ぢん)へうけて入
れりてをおもしそうそのいなしをうゝ
兵法に志ある紀いし法きたらひうらこの案
ぬし三門ろう海むまく人きらいほうら海をる
長刀法うふ兵法にあるこのあしきりいな法まく
きり車ぬしやるゆゝる孫うなうらと紀を
ゝ右史記(あと)より初めゝなさきにみたうきた

ちくたくあとこうりけり　きりそのうくく
しくたとふまはてんぢくしうのたうひに海
ひやうゝさ紀にうくまはまうきやうくぶやう
うけあたまろ金銀けいなる(で)うろ時太子をうる
給ひまりしさうひの兵法城ぶやうぎのなん
に法くまりをあまにはいて海さる海きうさ
し海太史ゝる紀なるこをてら海く三川にうら
神きい大夫を知ろけうけあらせ孫ち前(ぶ)法く
ぬき人法ふてうゝけまりに知ろさひうり
きのふまふとは田人　九三年三月此合戦也

此さうひは数日七月うたなるものいかす
あらはれ子たまもの人とかせともあくやうしこ
りをしあたりをのこらはうたれ
たりあまふう姫はかりなりさのこゝかはこを
作ては来来乃ごうとるへさありうちをせ
さうねこのゆへいさむもこせとかてたりひ
よかうみをねきこ何くさしちへて死ようを
をしまねこのいなりきり　あることのあの
よしはらんしてうきし海ゟ云云なさうる事し
なまとこをふう姫討死をうへ何よいのうを

此もふ面きと陪こしのこのをぬきもの後
抜きるんとし給ふところへ小山ゟ郎が来り
まさなき君乃陪ぶいやは　よるこへ陪おうへ
とていけとりまてあり



国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

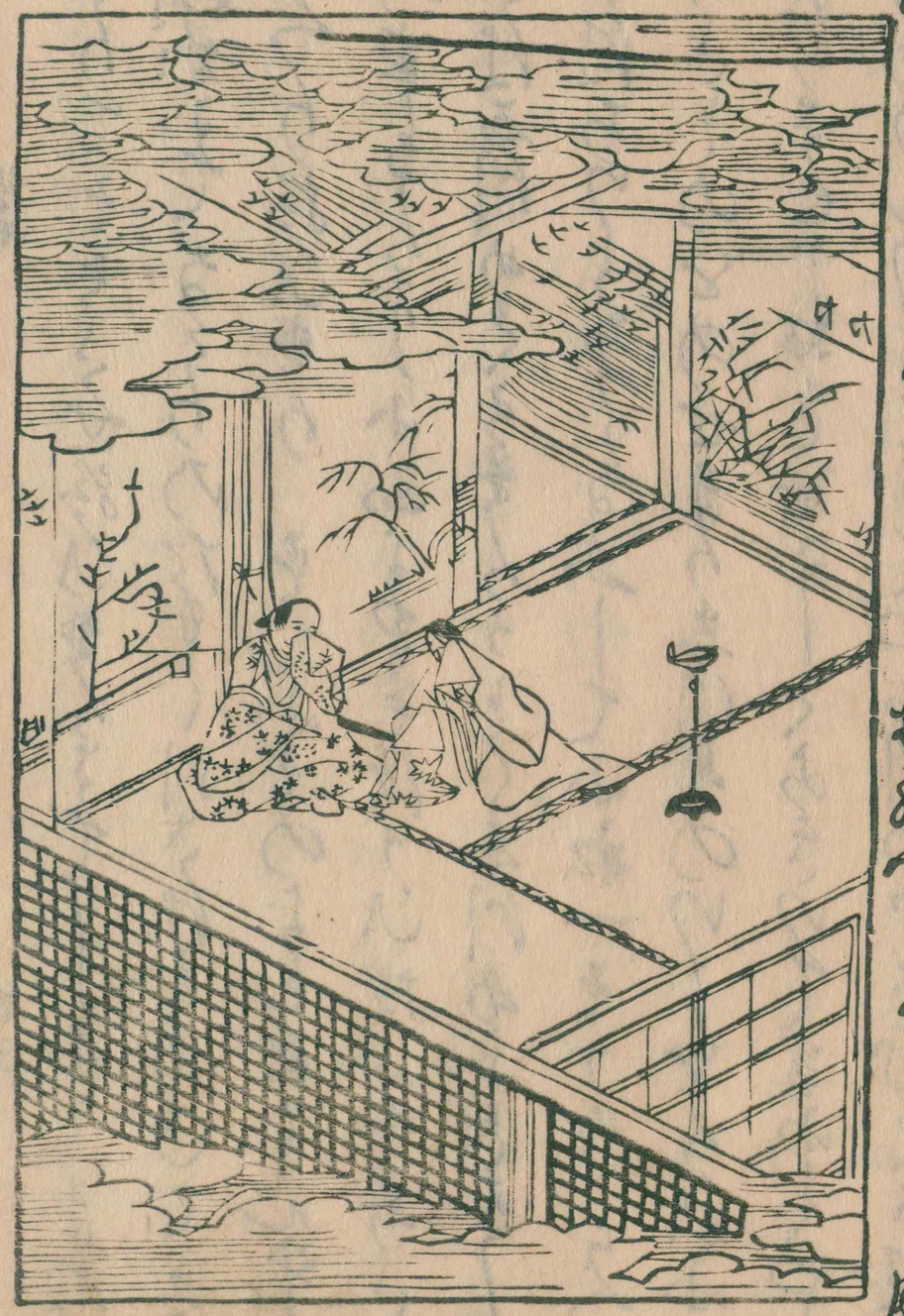
国立国会図書館　タイトル『信田』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

こゝあまゆへの事なまはう夷をのぞらこ
まりこりはらんせよと勢せありたもと
よりをまきものをとり制してこひ可きり
志ことの起こりて見給ふ可 御(おん)所(まう)のちきん
まうしあまい家に居こりの色きてうをう
まてけへたもらてハ何のあきあるんとりて
はゆり御しませやあ孫こ此よしきこし給し
そまハさうるまをたとひは身志をもりと
志ん御のちゅうのお仕の時をもやうしんは法
御へまてさしけ給ふをよるまは陽(こう)理(ま)のさり
あるまゝまると一あう乃法をとりをうり
のうまてあ色きそこし持給へとありし時



国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

あけまた人めしけしとそこの君よをくり
うてまつ里あらつゝよけてちりゝ名わり
宵ふそ物りまつ　まそふ事を歌をあけまは
小山よ里も使を立ちりゝ御おふめされしこ
をは志川めてありまつゝ中こ清弱を見す
志川めゆしては小山ゆくさなと志川めけつに
其時乃業む見をはるとあはぬそ屋うくふ
たりなんちゝさう海せんその家人ふりり
我して我とし物と我ゆくたりこゝとりん
ふはよも我らしあまううんしてとへ

取らとゆしてむさんやちりゝ我ゆくふせちう
ふあけ七十余度乃がうもんいめもあてられ
ねふせい也　又神志むふんさまそんし嫌り
を清うれまとさいしやゆらちやとは思へた
まて志ましし我うろ　ちりゝ名入日のあとく
なり信田殿をたとふまはあつ目清不むなる
るまやよめいをいふ其かさりありかりまや
命とていふ同とも我らさりまり名史のせめ
をあてしとふ毛ふ毛さしふ我らさまは拓木
よりをるをさけあらつ時ふはいさゝして

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

はありきのいたりしさよこやこまでれ法法
とはあのねとこうやさんとて度せうる事
鞠をきさしたことの我のを事り我身をとりに
いてしまるふ案内の法事なまは法度と
をもそまうしう元をいやさんと又案に引て
ちくらう座乃人あきひとのそうまやうまう
三郎よいひうりとまま一郎きまうへ与門こ
数たい國にあるまう三郎をとよりを当羽
乃ふなとへうりそまこまるとを津の國さうひれ
ちまをそうりきりの国西西うりまりり

のちにはなくろくたうのなさ我うしれさせ
給ふわりさうのをちまま越おの法りかこくにれ
こうなとか賀乃國にしやしこうこやれあしへ
そう川たりまるそのくあちまい松かけまた
こやあしまてとしめこうれ松りしちうれ
事なりし志川に志まきをしへて国を
うてとせめをれて くまといるうそのを指
を女乃ちらへもお給へと う川をきやうを
さしにふるしうのさむくまうのいかへ名あん
まうくまうていうしけなくこうこまき我

ゆれひくを一けいの田我うゑしゑあくれた絲
をまきまうけしんまううんまう同お変し
しやくのかたけえ長かりきそ重いきんまう
せいしゆりてらふをたこくむ乃理ありうの
しゝとのくのうをうゑ渡の種我まくやるん
貧ふも屋よふもたゆれたひめさかれたやし
りしまきかしてるゝくるまかりのこといるし

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

うらあろせわりをのともと下知をなす物り
ふしありあふわりをのともかろひれをまき
屋すゐえ我引さけしくこうらいてさやうなる
志まをのをいけるのかとふはとて志ことの
我見ほけ戸まけ一ほえほくそうけまりまる
たまかさゐえ云けるハ一ほえほくをあそひ
事かあまてハゐをの我こすけを記をのを
いたすまほ我ふはんかそんしはそこてひこ
うらに問くうらしろせ若をのともとけちを
なすはしたやまこうまりをのかいこりしや

志ことのをさんしくまうらふせ中今ハたや
ほ命をたすかりうくゝ見えさせ給ふとこの
まうのうらのと孫の孫うたうるさけのこを
者まてあこしのをまんまいらせあらいこり
やこの人をよふまてらるく人の子の母やれ
母く房をころゐかゐ[illegible]国をたう[illegible]
こうと母不ゆりなりまんあの人まほま
こんと中若者をうあまほ我そく孫うたうれ
母をせなりしも義の度をはへし又こけ海
りうね事をはほ　あの事まをひくハ

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

うゝ乃此主志かちの志やうしとのといへ
たまはおして我を すゝ月をなりめてあそ
ん達しつ志ことのを御論んしてあくりしか
やくに門ん乃めのうちのけこうさよかんいま
なと乃志ん志やうさよいつ面ゆを志まいこふ
を人我うとへ きゝりうゝと我かゆゝなり我
此としになりまて子我ゆゝを我子にせんと
の給ひて我さへてゝふてとりこまひちやく
そんとかうしい門きうしつきこ面ひまり
かくてきんふくせさせ中志かちのに志帰面

とゆてうゝかゝ志をにいこうまてう門うう
せぬいなりまりうるしときの我りかし
あくし西にくゝり給ひこうのこうに御うせ
給ふさいちやう清家人をせあ門まんてむさん
当家我御とむう國目よるの御ちやうにいこ達
ひこうち乃西りしたきさう海とないきう
ちん志によ門ゝあ方こゝて年ひさ志そ達
を産費乃ろんさうつきのきんをいさゝめの子
かゝしゆへ也こ達を國のなひこり産費れ
やうをさゝめんとてあいかゝ面れ志まゝ志

志れ乃志やうしそうしてさしき五十三
なる事人数う事あ事三百余人くそりうる者
城にけさまはたまうましさいかきりなし
なるまを志かちの志やうしとのわる男老
神なるほひと裏子のちやくそん小太郎殿城
いたしゆさるくなるひのさいちやうあ事を
こそかるふ御しとそさへまる西司より此法
ちやうゆい御とて志かち其自殺家ゆそ上を
うろくするゆへうを義なるは志かちの中殿
あらくく然しあくなきとの御綱也志ことの

きこしめされこ名のうちやと御用しめす
いやく西ひろきところまてりしをやまよう
ない志ん一そくのありりやせんと思ひ名家
加孫く御しますういまなのらまは裏子此父
母乃ちちといひ又さしき城こんをむ孫ん
なり名のうちやとお用しめしけい法城とり
あして西司のおまさくけらる　こくしこの
よしゆらんし　なふくうろうろ此親王
よ里を六代乃あうゆんまさうとの御孫さう
御の実子志ざ乃小太郎なふしとうち姫こ

国立国会図書館　タイトル『信田』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

國司はらんしていたいたしく奥州の國司
我三とせかのひたまつる海ふたく志ハ都へ
のかつゝ安堵我中て来らせんとてこくし
都へのからなしを稱ふ信田殿をのふまそハ
志かを原紀浮羽をあらしかひしかふ者
いけ志り引うへて五十四くんの主と成國我
こいらけ給ひまり　ひたりの所ひし
をやまの太郎ゆき志けハ志いくまさつ者
きハをるし七月七日むとてたりしをの我和
いたし七夕まりすなしひなり小山殿を金銀

まうらかすのたりしを和いたして至れたる
ふうされけるなるに志ことまはくりち来む
海ろかしをいふこまたるしあれきこの人の
志ろ者ハ君乃ねまこたくこのたかうと
なしたうと和かゆりなりうろうしろくる
人をこのこて何乃志きあるんをやしく治お
ひへとていたりしやひめ君我をひいたし
あらいたりしやひめこそとこりをかしを
へしとあしたまんたしめてなけくに及ると
とそめのとたりを引々してをやまのうち

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

なりめあそんさせ給ひ候く三十五日とやうし
こやこうし候うせ給ひきりふしひかし此京
をたゞ川ぬ達とそゆきかくこもなりきり清水
小まいり南無大悲観世音よろ川の和とけ此
くまんよりえせんしものちうひまこのりしや
今一度志ことのまあらせえたませ給へ屋
きせいふくそやさうく熊野のたう我為と
南海乃下さしかまてんまうしまゝよし
称あろこうをとうちまきてくまま野に集りて
三川乃屋まころ志川かまふしまりゝころ

給へとゆきかくなし四国九国をまつ称むとゝ
こうしやふ〇小ひんせむこうて四国小渡り
あきちし海をあら称志川かりしころ〇きり
清くしくこり乃みちすからも門のあうあら
海うせきあし屋のやまかたかこの漆志ら此
鳴迄ころぬ達とそのゆきかくをなりきり
なこやをあらせしゝ我ゆくひらとの様なし海
海ろうみろくし志川のさとくまんきこうう
しまいけうか鳴もちうく成ゆきのもとゝ様り
と渡りふそきゆうはうりのわりあら称日向

乃國ありときの濟きのさとありあまし後菅渡
ふせんをさしまきて紀渡の國にきこゝろ
おこりうり乃山をあくことひいしうしの三川
しあそ乃こけをあくまきて瀧おれ西より
いき乃里堂國たうりいたりまて名所也
佐きぬ抱也しこの小太郎るふしとゝへと
あこゝろの名なし　佐くしのうちよくもり
るしいきやめのと見ゆるしをちうとくさして
こゝ[illegible]むとしすこうり乃國小さしうる[illegible]ち此
あかりあさ　くゝやとくらゝいちとをくかゝ

ま立とくまりて爲々り　もりまの西よいり
ぬ来はあらまり河原ゆいの志ゆくこゝろた此
まこり屋此く屋と　名所きうせき我なりめ
あえんさせ給ひくさうひのまりにおさせ給ふ
さう爲乃もりかゝす紀人まつかなり我爲
ぬ来とそのゆきさこをるりまり其西此浦
ちす乃いけとやうらに抱るしもちまのら
もやな　兵庫(ひやうご)りし佐けたうなと川　ましめ
の松原うちてのしもく　こや聖いこゝを濟
乃屋と　抱かたのまちやあくたうを

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28
ガラス使用

かうないやまさ紀ま川孫かた　毎に家孫と
くらなまて　月のやとなかうつ川う夏世い
くる海乃まのことくめくりきねまたあく此
元乃ちなのこやこにつき給ふ　あの元此内
ゆくこそ里なしいさやめのとあまよりまをこと
乃乃にさしうらくらんとの給ひて　まま
をはこまかま川さらやあふさらの関此清の
にかけ見えていまやひくらん重月のこまに
あしをと少なるく大津うちてのちまよりまも
志らかくさ紀我見まさせはかくこのうしに

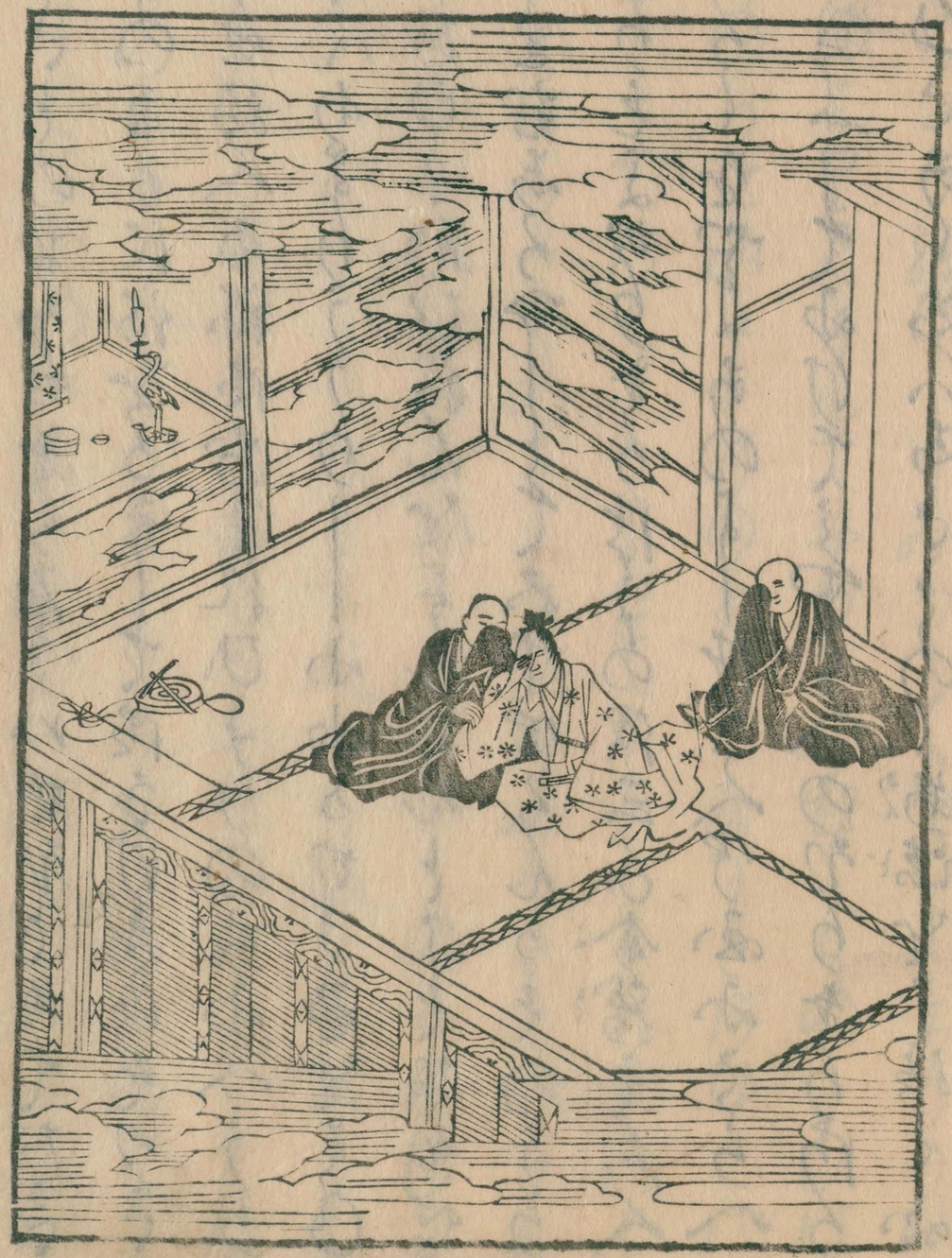
国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用

にうつり申候ハいとりとそまゐる　あら
いとりしやひめきこちふんこうまゐらせ
給ひ歌をすゝる法理をあそんせしゝ曉宮(あつさ)ハ
那りしゝは忘りうのかひうちなしは忘
たうく忘かうあり　あの法きゝうのくりきハ
ふ所に一切乃衆生あらくくむしゝかうなしいと
せうすへし　あとハいちくさうまとの母
法臺(ぢ)しことの成仏とくたつなり給へ其中ハ
しことのいまこう衆世ハあるゝ此法理
乃十種せつかよのくりきハよ所にきこうと

なるせきまひて　信田の小其郎子今一度
あはせくこひ給へなむさんかうしくと夜れ
そてとうかハあてもろきハ今れなきこうな
信田殿もちくたくのきうやうのそのこめま
ちふ所こうま法理ありて我もまかる法理を
あそんせしゝ忘りうのこ忘我きこしめし曽
うつ其まき海へまあひのしやうしをさんと
あけくりく見まりしあひこれなり難く
まうこなりまゝりしくとなし里よりはたりと
ハすりつきもこしを忘るの小太郎まてけへ

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『信田』 請求記号 本別13-28

ガラス使用

志ことの物をせまう屋うハかなとめてたき
よのなりに何をうさして陣なけきはそりさ
ませ給へ御孫御おほれひこうのくにへうら
あくあまりうりしに山かかう色をもひ
此なひこ乃ぬ孫んをさんせんとこそ物をせ
まきむ志うへしとて五十四くんうそのうら
よりをよかりまうはたもの後三子奈諸そろへ
らうくをやまあのよしはこへ御ふこらへ
かこふしてふけてこやこへのなりまうはう
あひこあく志ハ志ことの家姑を申給く函

にくらり給ひしうみちまてをやまありあひ
こ海よ里をとんて物りまふ志ことのこひれ
りのちをはこまけあまとゆ屋すきなひこれ
事とてはたうりよせてうくめとり家はと
とそ付志ことのなしそひ給ふ志ことのなあ
なくまふはよろこひなくむさしのくにはま
あひう殿道なし知きすへ　くひうち物とし
こまひこあしくの家とまこ書り我ふくまぬ
そのまなりまり屋うくしことのよ海まし
まりてこ下乃は月なしかしらうくみとこい

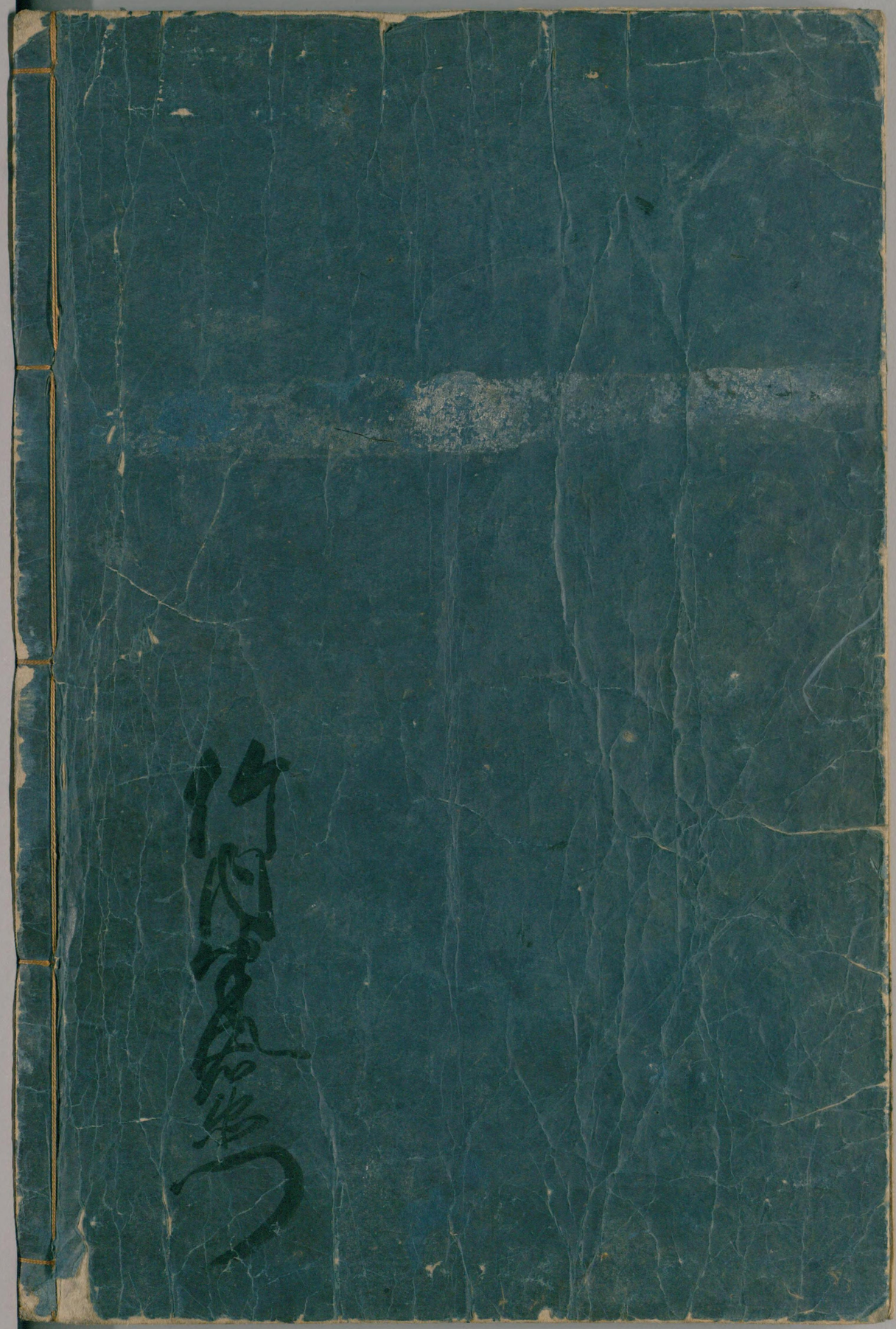
らん御しくて坂東八千國我ことのみし
こひ給ふこの御いてにあふこのくにとうや
大津乃うらをやうけ御しの葛太我からめ和
十日より我乃御めをもなし廿日みしもさち
乃ゆひ我をひくらひをひき首にまへり
兵人をなさけ御達なさけ人のこめなくれ
御ぬにいわり身にむくふとにくまねをのい
なりきりもんものしゆくへうちあえまし
しくてもう菓と小太郎うもしきあそ御そう達
しきをもしきをもとをもうもしせさうへ

きとをし御乃庄三百町もんものていにこひ
給ふひこちの西へ下向あそ信田の河内にて
討死しこりしう義し御太史う子孫ハなひ
うと問給ふ太史う孫を三人めしかしひて
三千町我をひにやりちゆうう後家ありて
とりに御いまいなめなりをに御見し坂
東八千國乃さうまんとうろ我をもにこひ
給ふ屋うて御身を信田の河内に御所を立て
御とし廿五まで御代にあらせ給ひて日もん
さうもんにとめさせ忌いくまさうへ給ひ

別13
25
28

国立国会図書館　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『信田』　請求記号 本別13-28

ガラス使用